

～入れ歯の神様が今伝えたいこと～

皆様ご存じのように、私は誰も訪問診療を行っていない時から保健婦さんや、介護をしている家族からの依頼を受け、40年前から訪問診療を行って参りました。よく噛めない義歯で食事が不自由な人が、私が開発したデンチャースペース義歯（顎堤条件が悪くても、天然歯の元あった位置に人工歯を排列して製作する）を装着すると、顔貌も戻り、会話、食事もスムーズになり、認知症の方にも受け入れてもらえ、義歯を装着された患者さんに手を合わせて喜んでくれる体験を何度もしてきました。また、患者さんが喜んでくれるだけでなく、全身の機能回復が見られ、体力も付き、寝たきりの人がデンチャースペース義歯を装着する事で、歩けるようになった体験もしました。

このことを多くの歯科医師に知って頂きたく、北海道から沖縄まで、患者実習を行いながら指導していく過程から、全国訪問歯科研究会「加藤塾」が発足し、またスライドや動画を使って、歯科医師に指導、講演会などを行ってきました。

約17年に渡り訪問診療に伺っている老健施設にて、その施設の介護職やケアマネ等、入所者をお世話する方々に、何の為に私がここへ来て治療をしているかという事を話す機会がありました。黒岩恭子先生が開発した『くるリーナブラシ』による、徹底した口腔ケアと噛める義歯による30回噛みの指導、中途咀嚼で食物を水で流し込みしない、しっかり噛む健康法で、多くの患者さんを元気づける内容です。介護関係の方々に話したところ、「是非介護に興味のある方にこの話をしてください」という依頼があり、多職種の方への講演会開催が実現する運びとなりました。

口からしっかり噛んで食べるという事が、高齢者にとってどれほど全身の健康に役立つかという話を、スライド、動画によって指導教育がなされていないという反省から、まず私がデンチャースペース義歯を患者に提供し、良く噛んで食べる事がどれほど健康に効果のある事かという内容の講演をさせて頂きたいと思います。そして歯科医の皆様も、これを良くご覧頂き、今後しっかり噛める条件を患者さんの口腔内で実践し、その結果全身の健康の回復が見られるスライド、動画を作り、私の行ったような事を各地域の介護関係者の方にお話しできるように準備をし、講演して頂くことが願いです。

何回も言うようですが、従来は歯科医師、衛生士などの方に口腔ケアの徹底や、噛める義歯の作り方教室を主に講演してきましたが、今回はその効果を多職種の方に知って頂く企画です。ご参会頂き発想の転換をし、今後の医療・介護に取り組んで下さい。

尚、8月中旬に発売される「週刊文春」に、加藤塾メンバーでもある医療ジャーナリストの塩田さんが、いかに高齢者の義歯の患者満足度が得られていないかという記事を掲載されます、私の話も載りますので、ご覧くださいませ。

加藤武彦